

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年10月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4071400693
法人名	医療法人 おがた整形外科医院
事業所名	高齢者在宅複合施設 サザン
所在地 (電話番号)	福岡市早良区次郎丸1丁目29番40号 (電話) 092-863-8033

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成20年9月3日	評価確定日	平成21年1月9日

【情報提供票より】(20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年9月20日		
ユニット数	5 ユニット	利用定員数計	45 人
職員数	36 人	常勤	36人 非常勤 0人 常勤換算 36人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋コンクリート	
	4階建ての	2階 ~ 4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	500,000 有	有りの場合 償却の有無	有 3年間	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	39 名	男性	6 名	女性	34 名
要介護1	3 名	要介護2	10 名		
要介護3	18 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白十字病院 よしだ歯科医院 福岡記念病院 おがた整形外科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体医療法人は設立時より地域に根ざした医療を提供し30年となる。その中で地域も高齢化を迎え、地域の人々より介護の施設を作って欲しいという要望があり8年前にホームが設立された。ホームの存在するビルは4階建てで1階がデイサービス・2階~4階がホームで、5ユニットとなっている。1階のデイサービスは大規模で約80名の利用者があり、地域の人々が来られ中にはホームの利用者と顔なじみの人もおられる。地域との交流は盛んで夏祭りには近隣より約1600名が見に来られ、サザンの夏祭りという地域との夏祭りとして定着しており、毎年の楽しみとなり小学生より問合せがあるほどである。また、小中学生の時、職場体験に来た人がサザンに就職したり職員が自治会や町内会の役員となったり、まさに地域に根ざしたホームとなっている。法人代表の方針で食事内容は充実しており種類が豊富である。利用者は食事の準備を職員と一緒に和気藹々と楽しみながら行っており表情も生き生きとしておられた。利用者職員とも明るい雰囲気に入れられ、温かみを感じることのできるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題としては、運営推進会議への市町村担当者または地域包括支援センター職員の参加および、モニタリングの記録や状態変化時の介護計画の変更等があげられた。運営推進会議には市町村担当者等の出席はされていないが、地域包括支援センター職員が常時出入りされており、情報交換はできている。また、モニタリングは記録され、状態変化時の介護計画の変更も実施されていた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニット毎に話し合いを行い主任と管理者等が全体会議にて話し合いを行っている。その後サービス提供時に項目に対しての把握や確認を行い取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	月2回開催され、利用者・利用者家族・町内会長・法人代表・職員等が参加し、ホームの現状報告や要望の吸収等を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	毎月1回は支払いのため必ず家族に来てもらうようにしている。そのときに管理者や職員等が必ず意向や意見や要望をを聞くようにしており、検討事項があれば話し合いを持ち対応するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	利用者はほぼ毎日散歩するようにしており、地域の住民から声をかけられたり、果物や野菜を頂くことも良くある。ホームとしても職員が地域活動に積極的に参加し地域との交流を深めている。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている	法人設立時より地域に根ざした医療 介護を目指している。特にホームは地域の要望により設立されたものであり まさに地域と密着したホームである。利用者が地域の中でその人らしく暮らすこと また事業者がその地域に貢献し連携をとることを理念とし実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の会議時に理念の実践について管理者より職員に対し教育を行っている。職員は「明るく愛のある明日」の3Aを日々実践をしている。		
を					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や町内会の役員に職員がなったり 地域の行事の行事の打ち合わせ等に参加したりし、地域と共に活動し地元の住民から頼りにされる程交流を深めている。利用者職員が散歩等しているときは地域の住民から声をかけられることもしばしばある。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まずユニットごとに話し合いを行い、管理者がまとめ上げた。前回の改善項目については取り組みを行った。評価票は各ユニットの入り口にそれぞれ置かれ誰でも閲覧できるようにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催を必ず行い、利用者・利用者家族・町内会長・法人代表・職員等が参加し、ホームの現状報告や要望の吸収等を行っている。		

高齢者在宅複合施設 サザン

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員が常時出入りし相談にのるなどし、職員が入所や困難事例等があった場合など、区役所に電話や直接出向き相談し、アドバイスを受けている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設での研修が年に1回行われており、マニュアルを用い職員が理解できるようにしている。職員も周知しており必要な時には冊子を準備し対応している。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払いには必ず来てもらうようにしている。来られた時には管理者や職員が必ず声をかけ、個々に状態の説明や報告を行っている。また、必要に応じ電話や手紙で暮らしぶりを報告している。金銭管理についても1ヶ月に1回確認をしてもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪したときに職員が声をかけ意見を聴ける雰囲気を作っている。また、行事の時に家族会を開くようにしており、そこからの要望も出ている。また、家族同士で決定し食事会なども開いている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への担当制は取っておらず全職員が個々の利用者の状態を把握している。異動や退職の場合は1カ月の引継ぎ期間を設けるようにし、新人と共に引き継ぎを行った上他の職員もフォローしている。		

高齢者在宅複合施設 サザン

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用については特に年齢や性別等の制限は無いが、高齢者への思いや理解があることを重視している。採用後は、職員の適性により合ったユニットへ配属するようしており、職員の希望や要望等はできる限り取り入れられるようにしている。ホームの行事では職員の特技や趣味を活かすようにしてもらっている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時に法人内で人研修を行っている。また、ホーム内でも月1回例会議を開き、その中で機会があるごとに教育を行っている。職員は敬いの心を持って利用者の対応にあたっている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画が作成されており、月1回以上の研修がある。外部の研修にはシフトの割り振りをし、行い出来るだけ参加できるようにしている。参加できなかった職員に対しては、伝達研修を行っている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、福岡県のグループホーム協議会に入会しており、研修会等で他のホームと情報交換をする機会がある。地域では、近隣のホームへ見学に行ったり他のホームから見学に来ることもあり、職員同士も交流を図っている。		
6.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスセンターを利用してもらったり、本人、家族にホームの見学をしてもらっている。その後、ホームから連絡をし訪問して本人が納得し、徐々に馴染める体制を取っている。		

高齢者在宅複合施設 サザン

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	何事にも利用者主導で出来ることは極力してもらうようにしている。職員は食事の作り方や味付けを教えるもらったりし、人生の先輩として敬う心で接している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で本人の意向や希望を職員が聞くようにしている。また、表現が困難な利用者には表情や行動、家族の話より汲み取るようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を尊重し、家族の意見や意向を面会時に聴き取り、担当者会議にて、それを反映させている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	管理者、ケアマネジャー、職員、家族にて3ヶ月に1回モニタリングを行っている。状態の変化や意向が変わった場合は検討を行い計画を変更している。		

高齢者在宅複合施設 サザン

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階のデイサービスのレクリエーションに参加してもらったりボランティアに来てもらったりしている。主治医への受診も支援しており、主治医の要望で家族の同行が必要な場合は一緒に行くようにしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医を本人のかかりつけ医とし職員同行にて受診を行っている。また、協力医や母体の医師もホームへ訪問し利用者個々に往診できる体制を取っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針があり、家族へ説明を行っている。法人のターミナルケアの研修を職員は受けておりホームでできる限りの対応をしていくこととしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録は事務室の施錠の出来るところに保管されている。職員はマンツーマンで利用者に接し一人ひとりの尊厳や誇りを傷つけ無い様、細心の注意を払っている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の暮らし方等を入所時に本人、家族と共に話し合いを行い、それに合わせ個々に対応している。利用者のその日の要望や体調により気分転換を図ったり、利用者の行動を観察することで本人の意向を把握している。		

高齢者在宅複合施設 サザン

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、配膳の一部を職員と共に行っている。職員も一緒のものを同じテーブルで食し、介助が必要な利用者にはさび気なくサポートしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に曜日や時間帯の制限はしておらず、いつでも希望があれば入浴できる。1階のデイサービスには大浴場があり、そこも利用可能で利用者は温泉へ行った気分で入浴されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の能力や希望に合わせ当番制にし役割を持ってもらったりしている。食後の片付けや裁縫などや書道等得意な事を本人ができるようにクラブ活動も取り入れ本人の楽しみ事ができるようにしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の状態により、ほぼ毎日、近隣に散歩に出かけている。散歩の途中に、地域の人々と会話をしたりおすそ分けをもらったり交流をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ビルの2階～4階がホームになっており、それぞれエレベーターが設置されているが、各ユニットからの出入り口は開放され自由に行き来することができる。また、1階の玄関も施錠されていない。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練は行われており、夜間想定での訓練も実施されている。地域の消防団に職員も所属しており、協力体制もとれている。		

高齢者在宅複合施設 サザン

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士、看護師が利用者ごと栄養計算し支援を行なっている。食事チェック表に摂取量を記入し、水分の管理が必要な利用者の場合は摂取量の記録をしている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには自然な光が入り込み、適度な明るさである。各ユニットの入り口やリビングには季節感を感じさせる花や小物が置かれたり、壁面には習字など利用者の作品が飾られている。また、廊下のところどころには椅子やベンチなどが置かれ好きなきに休憩することができる。全体的に家庭的で落ちついた雰囲気を感じるできる共用空間となっている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた道具や家具が持ち込まれたり、壁には家族の写真が貼られたりし利用者好みの過ごしやすい居室となっている。		